

4 顎関節造影検査

顎関節の関節腔に、注射器でヨード系造影剤を注入する。関節円板の診断に用いる。

この検査も、最近ではMRIの普及により、あまり行われない。

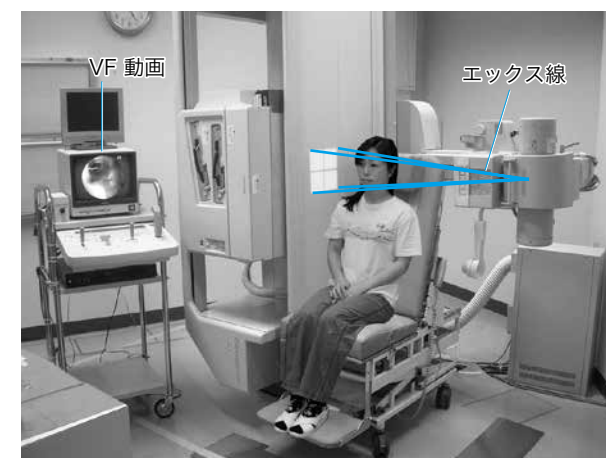
5 ビデオ嚥下造影検査(Videofluorography: VF 検査)

嚥下障害の診断を行う検査である。嚥下障害とは、口腔癌の術後や脳梗塞などで起こる飲み込む運動(摂食運動)の障害で、食物や液体が口腔から食道に移行するまでの運動障害である。また、気管への誤嚥も含まれる(図 6-52)。嚥下機能と病態を評価するために、さまざまな検査方法が施行されているが、エックス線透視診断装置を使った VF 検査は、口腔咽頭領域の機能や構造を動画で正確に評価できる。

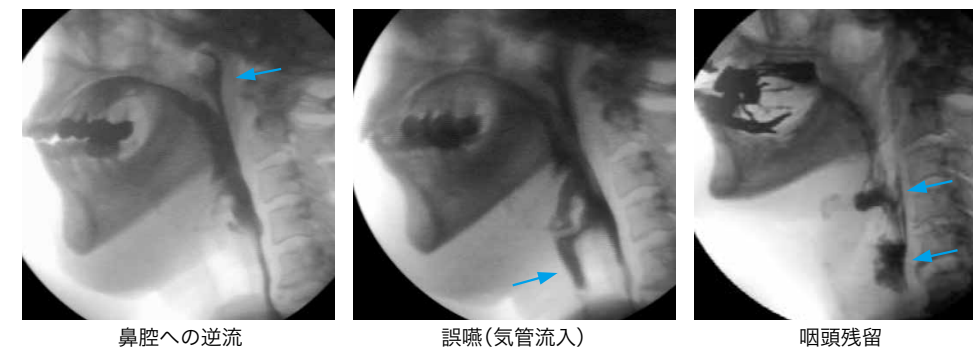
検査の方法は、患者をエックス線透視診断装置の前に座らせ、少量の造影剤を飲んでいながら、エックス線を出し続けてモニター画面(ビデオ録画も同時に行う)に動画を表示するものである(図 6-53)。造影剤の流れや貯留状態、嚥下関与器官(骨や筋肉など)の動きを観察し、病態評価を行う(図 6-54)。

造影剤には、一般的に、消化管造影剤である硫酸バリウムを用いる。硫酸バリウムを溶かした液に増粘剤などを入れて、濃度(粘稠度)を調整して使用する(図 6-55)。

VF 検査は、嚥下機能検査法の中でも信頼性の高い方法であるが、エックス線被曝の観点から長時間の撮影や短期間での繰り返し評価を行うことは避けるべきである。



■ 図 6-53 エックス線透視診断装置を使った VF 検査法 ■

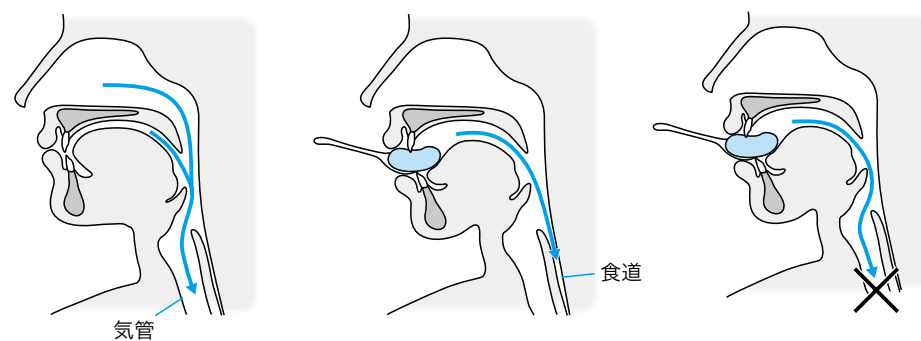


鼻腔への逆流

誤嚥(気管流入)

咽頭残留

■ 図 6-54 VF 画像 ■



正常な呼吸
空気が気管へ

正常な摂食
食物は食道へ

誤嚥
食物が気管に入るのは異常

■ 図 6-52 摂食運動 ■



液性バリウム

増粘剤を入れる

増粘バリウム

■ 図 6-55 造影剤 ■

▶ 実際の VF 画像をみてみよう

(正常嚥下)



(異常嚥下)

